

子どもの気持の表現にふれるとき (1)

——水遊びを通して——

唐 木 久 枝

はじめに

発達におくれのある子ども達の保育の現場にいと、同じ遊びを、毎日毎日、繰り返しやっていたり、一つの遊びに、長い間、熱中している子どもをよくみかけます。

そして、おとなは、つい、その子どものやっていることに目を向けて、「いつまでたっても同じことをやっている。」とか「繰り返し、繰り返しで進歩がない。」とか「ぐせにならないだろうか。」など、そのやっていることがらにとらわれがちです。

でも、ひとりひとりの子どもをよくみてみると、自分からやり出したことには、必ず、何か意味があるので。特に、自分の気持をうまくおとなに伝えられなかったり、また、自分自身でも、気持がよくわからないでいる子どもの場合、遊びが、気持の表現であったり、遊びの中で、気持の整理をしていることをたびたび感じさせられます。

そして、その遊びは、子どもの発達の過程における一つの手段で、そのことにとらわれていたのは、むしろおとなであったことに気づかされるのです。

夏の終わり、子ども達も、そろそろ水遊びから遠ざかってゆく中、ひとりの男の子が、はだかん坊で、庭の外水道からとんでくる水しぶきを、全身でうけて、歓声をあげています。

何をしたらいいのかな？

Bは、当時、愛育養護学校の幼稚部、4歳児のひとりです。Bの一学期は、何かいろいろとやってみるものの、これといって、しっかり取り組むものもみつからず、特定の保育者との関係ももてず、遊びこめずについて、いっしょに遊ぼうとする保育者も、Bの動きがつかめず、どのようにかかわったらよいか戸惑ってしまう状態でした。

記録より

。何で遊んでいても、とても楽しそうという感じは見受けられない。たまに、保育者の手を自分からひくが、身体的接触は、あまり好まない様である。(5月1日)
。定まった遊びがなく、Bがとびまわっている時は、か

かわりようがなく、こちらでBと遊ぼうと思っても、うまくかみ合わない。(5月17日)

。保育者が、くっついて行くと、するりするりと避けているようであるが、ついてこられるのが、うれしい様でもある。(6月11日)

これだ！ 水だ

そして、二学期になりました。人との関係を丁寧育てた方がよいだろうということではばらくの間、私が、じっくりつきあうことになりました。Bは、一学期の終わり頃から熱中しはじめた水遊びを期待しているかのように、登園してくるようになりました。

記録より

。登園すると、すぐはだかになって、お弁当をもって、庭へとび出す。水たまりを足でバチャバチャと、けちらすように走りまわる。お弁当を食べ、水遊びをする。(9月20日)

Bは、登園すると、室のロッカーの所まで行き、そこ

ではだかになり、お弁当のはいったバックをもって庭に
とび出します。庭の特定の場所へ行つて、お弁当をひろ
げ、食べてしまいます。そして、一日中、はだかで、水
遊びに熱中するという毎日です。これは、一学期の、取
り組むものもみつからず、何かを探している状態で、気
持もどこにむけてよいかわからないでいたことを考えると、登園してすぐお弁当を食べるのも、一日中、はだか
で水遊びをするのも、Bが自分からやりはじめたこと
で、Bのみつけた、気持の表現の行為のように思われた
のです。この頃のBの表情や動きには、常に緊張感が漂
っていました。

ですから、表情にも、動きにも余裕がなく、もう一つ、
自分を出しきれない感じがありました。でも、水遊
びをしている時のBは、とても積極的で、大きな声を出
し、何かから解放されたように遊びます。私には、Bが
水遊びを通して、より自由な、積極的な気持を経験して
いるように思えたのです。それで私は、お弁当も、水
も、はだかもとめずに、Bの動きにまかせ、なるべくB

といっしょにいようとしました。

記録より

○ロッカー所で服を脱ぐと、お弁当と私の手をもって、
庭へとび出す。お弁当を、いつもの所におき、そのそ
ばに私をすわらせ、お弁当を食べる。(10月11日)

Bは、私がいつもいっしょにいるのをすぐわかって、
朝からしっかり手をひいて、庭の特定の場所にすわらせ
ます。庭のちょっと草のはえた所に、お弁当と私をもつ
てゆき、そこへ私をすわらせ、お弁当を食べるのです。
お弁当を食べおえると、水遊びのはじまりです。Bの水
遊びは、庭にできた水たまりを、足でパチャパチャけち
らして走りまわることからはじまります。Bが水遊びを
している時は、夢中というか、一心不乱というか、おと
なのとりつくしまがなく、こちらとしては、どのようにか
かわつたらよいかわからず、それこそ、手も足も口も
出ないという感じです。ですから私は、Bに連れて行か
れた場所から、たえずBを見守ります。Bは、水をとば
して水しぶきのようにしてもらい、それを体全体でうけ

るのが好きで、それをしてもらいたい時には、私の手をひきます。でも、これは、だれでもよかったようです。

Bの水遊びは、体全体で水を感じていると同時に、勢いよくとんでくる水に体をぶつけ、大きな声を出して、思いきり、気持をぶつけているようにも思えました。

Bは、ほとんどことばを話しません。そして、いやな時にも、あまり、相手に対して攻撃的なことをしてぶつかってゆくことをせず、どちらかというと、周囲の人（主におとな）にふりまわされ、自分の気持は、あまり伝えられずに過すことが多かったようです。ですから、Bのがむしやらかなお弁当の食べ方や、突進するような水の遊びが、人に対して、うまく表わせないBのいろいろな気持をむけているように思えたのです。

抱っこもしてほしいな

記録より

。午後も、ずっと、私に水しぶきをやらせる。ひと遊びすると、自分からやめる。私が体を拭いてあげると、

そのまま抱っこをしてくる、顔を近づけあまえてくる。（10月11日）

はだかできび出し、お弁当を食べ、思いきり水で遊ぶと、Bは、私のところへやってきて、ベッタリと抱っこをして、顔をすりよせてあまえてくるようになりました。その時のBは、安心した、おちついた、穏やかな表情をします。ただ、こういう関係が、いつでももてるというわけではなく、朝、出会ってから、おちつくまでには時間がかかります。その間のBの遊びが水で、私は、見守る役をするわけです。

記録より

。今日は、Bは、他の保育者と一日過ごした。「私は他の子どもといっしょだった」帰りぎわ、下駄箱のところで、さよならを言おうとするが、視線を合わせようとしなない。（9月25日）

同じ場所にすわっているよう要求し、遊びが一段落つくと、ベッタリあまえてくる以外は、あまり、私に要求を出さないBでした。しかし、所定の場所にいるはずの

私が、他の子どもに手をひかれたりして、しばらく留守にしてしまったり、私がつきあえずに、他の保育者にまかせたりすると、その後、私の方から行っても視線をあわせなかったりして、抱っこをしてきてくれるような関係になるまで、かなり時間がかかりました。他の子どもと遊んでいたりする私の手をひきにくるというような積極的な行為が、まだまだできないBにとって、視線を合わせないというのは唯一のBの気持の表現であったのでしょう。Bにとっては、同じ場所から、たえず自分のことを見守ってくれる人のいることが、とても大切なことだったようです。そして、その人が確実に、自分に気持ちをむけてくれることがわかると、自分も、安心して、相手の中にとびこんでゆけるのではないのでしょうか。

Bには、二つ年下の弟がいます。お母さんは弟が生まれるまでは仕事をしていて、その間、Bの世話はおばあさんがしていました。そして、弟が生まれてからは、お母さんは家にいましたが、弟がお母さん、Bは、お父さんかおばあさんという組み合わせが多く、外出する時

も、Bは常にお父さんといっしょであったようです。ですから、お母さんに抱っこをされるといふことは、ほとんどない生活だったようです。でも、ほんとうは、お母さんにあまえたかったのではないのでしょうか。ただ、そういうチャンスもなく、ストレートに表現できなかった、というより、B自身も、そのことに気づいていなかったのかもしれない。愛育に通いはじめた時も、おくり、むかえは、お父さんであったり、おばあさんであったり、お母さんであったりまちまちでした。でも、お母り近くの時間になると、Bが不安定になることなどから、できるだけ、お母さんにしてほしいと、こちらでお願いしたのです。

記録より

。お帰りの時、Bは水遊びの最中で、とても楽しそうに、遊んでいた。しかし、門からはいつてくる母親の姿をみつけると、無表情になり、パーッと室のロッカーの所へゆく。私が、体を拭いている間に母親がやってくる。母親に服をきせてもらうと、すぐに下駄箱へ

とび出し、門の方へ走ってゆく。(10月12日)

毎日、お帰りの時間になって、おむかえのお母さんの姿に気づくと、Bは、どんなに楽しそうに遊んでいても、パッと表情を変え、一目散で、お母さんの所ではなく、着替えるために、室のロッカーの所にゆきます。そして、お母さんが、Bの身支度を整えると、もう、保育者がお母さんと話す間もなく、お母さんの手をひき、下駄箱へ、そして門へと走ってゆくのです。この時のBの緊張した表情から、どうしたらよいかわからず、ストリートにとびこんでゆけないが、とても意識しているというお母さんに対しての心の動揺を感じずにはいられませんでした。

このような状況の中で、十月も後半をむかえ、日増しに寒くなってきました。水で遊ぶ時間は少しずつ短くなり、他の遊びも少しずつふえてはきましたが、Bの遊びの中心はやはり水でした。はだかで、体を真赤にして、大きな声を出して、水と戦うように遊ぶBをみて、

私の気持はあせります。水をとばす私の指先も、いたい程で、それが、よけいにBの心の緊張感を伝えてきます。「なんで、こんなにまでして、やるのだろう。」と、繰り返しながらも、少しずつできてきているBとの関係を育てること、それができなければならぬと自分にいっきかせ、じっくりつきあうことを心がけました。

水だけじゃ、ないんだね

記録より

。好きなおもちゃを探してきて、水たまりにいれる。何を思ったか、その一つである長ぐつに水を入れ、一人の保育者のトレーナーにかけにゆく。その反応を楽しむかのように二度、三度と、ケラケラ笑ってかけにゆく。(11月29日)

十一月になりました。Bの水遊びは続きます。でも、少しずつ、いろいろな変化があらわれてきました。今までは、「水遊びをしたい」というよりは「せざるをえな

い」という切羽詰まった感じをうけていましたが、この頃から少しずつ、水遊びを楽しんでいるようにみられる時間が増えてきました。もちろん、体全体での水しぶきは、Bが大きな声を出して最も興奮してやっているようにみえるのですが、それだけでなく、水しぶきによってできた水たまりに、好きなおもちゃを集めたり、水が落ちゆく先で、砂を掘るようになっていなのをじっとみていて、砂をさわってみるなどして、水と面とむかっているだけでなく、水遊びを楽しんでいる様子が見られることが、多くなってきたのです。そして、水を私や、他の保育者にかけて、その反応を楽しんだり、水たまりに私をひっぱり、あたかも「いっしょにはいろう。」と言わんばかりに微笑みかけたりすることもありました。水を通して、人に気持がむいてきているのを感じずにはいられませんでした。

そして、水遊び全体の時間もかなり短かくなってきました。

記録より

○はだかになって遊びはじめる。長い時間ブランコにのる。ひとりで乗っている時は、大きくゆらすと、声をたてて笑う。いっしょに乗ると、ひざにのってくる。ジャングルにのぼると、私のひざにすわって20分程のんびりすごす、結局、午前中は、水遊びをしなかった。(11月2日)

○午後、ジャングル、すべり台、ブランコへと私の手をひき、二人ですごす。午後は水をやらなかった。(11月5日)

十月までの水遊びのパターンが、少しずつつくずれて、水遊び以外の遊びで過す時間が増えてきました。それも、どちらかというと、私とむかいあったり、ひざにのったり、二人がふれあっている感じの遊びが多いのです。

そして、朝のお弁当も、しだいに、だらだら食べるようになってきました。

記録より

。庭にお弁当をひろげたまま、遊びはじめ。私が、お弁当を片づけてしまいが、探す様子もない。結局、お弁当の時間に室にさそうと、お弁当をもって、庭の所定の所へ行って食べる。(11月5日)

この頃から、どうしても、朝、食べなくてはいられない状態ではないようなので、なるべく、お昼まで、待たせるようにしました。といっても、お弁当の時間になると、お弁当をもって、庭のいつもの所へ行って食べるのです。体を動かしている時は、いいのですが、この時は、さすがに寒そうです。それで、服をもって行ったら、お弁当の時は、服をきるようになりました。

これらのことと平行して変わったことは、お帰りのこととです。

記録より

。お帰りの時、母親に着替えさせてもらっている時、ニコニコしている。そして、私が母親と話をしても、そばで待つゆとりがある。(11月1日)

お帰りで、お母さんの姿がみえると、あいかわらず、パーッと走って入室します。しかし、お母さんが、Bに服を着せ、帰り支度をしている時の表情や態度に、少しずつ、ゆとりがでてきました。また、私がお母さんに、その日のことなどを報告している間、少しくらいなら、余裕をもって待てるようになってきました。

このように二学期の終わりには、緊張感のほぐれる時間が、ずい分多くなり、少しずつ動きや表情に余裕がでてきました。また、人との関係が育ちつつあるのもはっきり感じられ、やや緊張のほぐれた私でした。緊張していたのは、Bだけでなく、私もだったようです。

(つづく)

(愛育養護学校)

*

*